

## 資格・検定試験を活用した英語 4 技能評価について

### 1) 英語教育の抜本的改革

- グローバル化が急速に進展する中、英語によるコミュニケーション能力の向上が課題。現行の高等学校学習指導要領（平成 25 年度～）では、授業は英語を用いて行うことを基本とし、「話すこと」「書くこと」を含む英語 4 技能の総合的な育成を重視。
- 次期学習指導要領では、更に小中高等学校で一貫した目標を実現するため、外国語の能力を総合的に評価する C E F R 等を参考に、段階的な「国の指標形式の目標」を設定するとともに、統合的な言語活動を一層重視。

### 2) 資格・検定試験の活用の必要性

- 本来的には、各大学が個別選抜において英語 4 技能評価を全受検生に実施することが望ましいが、体制・負担の観点から課題が大きい。
- 大学入試センター試験では、従来、コミュニケーション能力を重視した出題範囲の設定（平成 9 年度～）や、リスニングの導入（平成 18 年度～）等に取り組んできたが、大卒では「読むこと」「聞くこと」の能力を選択式で問うものとなっております。試験開始以来、大きな変化はない。  
 また、「話すこと」「書くこと」を含む 4 技能の総合的な評価について、50 万人規模での一斉実施のための環境整備等の観点から、センターが直接実施するのは物理的に困難。  
 このため、「話すこと」「書くこと」を含む統合型の言語活動など、英語教育の抜本的改革に対応するには限界がある。
- 一方、民間の資格・検定試験は、英語 4 技能を総合的に評価するものとして社会的に認知され、定着している。高校教育や大学の初年次教育の場でも活用が進み、推薦・AO入試を中心に大学入学者選抜でも活用されている。

(参考)・高校3年生の12月時点で英検を受験したことがある生徒数

普通科生徒71万人中23万人(約3割)(H27英語教育実施状況調査より)

・大学入学者選抜において英語資格・検定試験を活用している大学(H27年度)

国立大学では、推薦入試23.5%、AO入試13.6%、一般入試11.1%

⇒ 大学入学者選抜において、資格・検定試験を積極的に活用することにより、英語 4 技能評価を推進することが有効。高等学校における授業改善を促進。

※ 各資格・検定試験について、C E F R との対応関係が検証され、対照表も作成済。C E F R の各バンドとの対応関係を介して各試験間の比較が可能。  
 次期学習指導要領でも、C E F R 等を参考に段階的な目標が設定予定。  
 センター実施の「読むこと」「聞くこと」の評価も C E F R 等を参考に改善。

# 高等学校における英語科目の改訂の方向性として考えられる構成

平成28年12月21日  
中央教育審議会答申  
別添資料

外国語  
現行科目

コミュニケーション英語基礎

コミュニケーション英語Ⅰ  
(必修)

コミュニケーション英語Ⅱ

コミュニケーション英語Ⅲ

英語表現Ⅰ

英語表現Ⅱ

英語会話

課題

- 生徒の英語力について、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」全般、特に「話すこと」と「書くこと」の能力が課題
- 英語の学習意欲に課題
- 言語活動、特に、統合型の言語活動（例：聞いたり読んだりしたことに基づいて話したり書いたりする活動）が十分ではない
- グローバル時代において、英語学習に関する生徒の多様化への対応が必要

発信力が弱い

育成を  
目指す  
資質・能力等

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・話し手・読み手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりする能力を養う

「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合型  
(必修科目を含む)の科目を核とする

発信能力の育成をさらに強化する

英語による思考力・判断力・表現力を高める見直し

英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ

- 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を総合的に育成（受信・発信のバランス）
- 明確な目標（英語を用いて何ができるようになるか）を達成するための構成・内容
- 複数の力を統合させた言語活動が中心
- 「英コミュⅠ」は中学校段階での学習の確実な定着（高等学校への橋渡し）を含む。

学習指導要領に掲げられる資質・能力を確実に育成するための指標形式の目標を段階的に設定

論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

- 「話すこと」「書くこと」を中心とした発信力の強化
- スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動が中心
- 聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを活用してアウトプットする統合型の言語活動

併せて専門教科「英語」の各科目も見直し  
⇒ 総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ディベート&ディスカッションⅠ・Ⅱ、エッセー・ライティングⅠ・Ⅱ

生徒が実社会や実生活の中で、自らが課題を発見し、主体的・協働的に探求し、英語で考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習

改訂の方向性

I ↓ III へ内容の高度化・話題の多様化

# 外国語教育の抜本的強化のイメージ

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表。

CEFR

B2

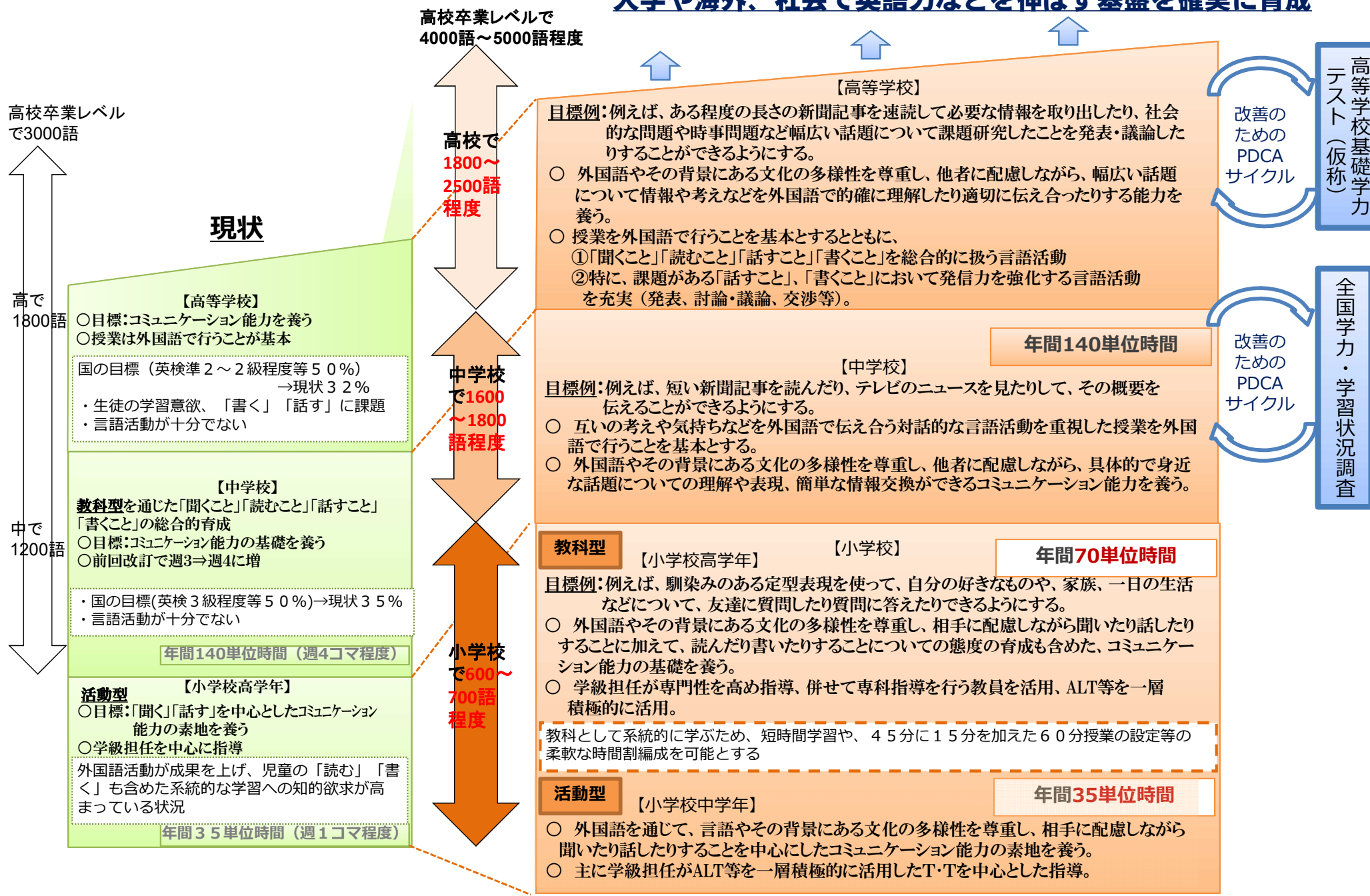
B1

A2

A1

## 新たな外国語教育

### 大学や海外、社会で英語力などを伸ばす基盤を確実に育成



# 「外国語」等における小・中・高等学校を通じた国の領域別の目標（イメージ）たたき台

平成28年12月21日  
中央教育審議会答申  
別添資料

複数の力を統合的に扱う言語活動を通して求められる英語力を身に付ける

校種	CEFR レベル	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
高等学校 ↑ 中学校 ↑ 小学校	B2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○母語話者同士による多様な話題の長い会話を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。</li> <li>○身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解できるようにする。</li> <li>○自然な速さで話される時事問題や社会問題に関する長い説明を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。</li> <li>○ある程度知識のある社会問題や時事問題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して、概要や要点を理解することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関心のある分野の記事や資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。</li> <li>○興味のある現代小説や随筆を読んで、概要を理解することができるようにする。</li> <li>○時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を読んで、概要や要点、筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幅広い話題に関する会話に参加し、情報や自分の意見などを適切かつ流暢に表現することができるようにする。</li> <li>○知識のある時事問題や社会問題について、幅広い表現を用いて議論することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幅広い話題について、即興で、説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりすることができるようにする。</li> <li>○幅広い分野のテーマについて、明瞭かつ詳細な説明をすることができる。</li> <li>○多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、様々な見方の長所・短所を示すとともに、自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができるようにする。</li> <li>○聴衆の反応に応じて、発表の内容や方法を調整することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関心のある分野のテーマについて、事実や情報などを明確且つ詳細に伝える説明文を書くことができるようにする。</li> <li>○時事問題や社会問題など幅広い話題に関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。</li> <li>○時事問題や社会問題など幅広い話題について、得た情報を活用しながら、自分の意見やその理由を論理的に書くことができるようにする。</li> <li>○Eメール、エッセイ、レポートなどをそれぞれの用途に合った文体で書くことができるようにする。</li> </ul>
	B1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。</li> <li>○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができるようにする。</li> <li>○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。</li> <li>○短い物語を読んで、あらすじを理解することができるようにする。</li> <li>○社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できるようにする。</li> <li>○英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共の場所(店、駅など)において、自分の問題を説明し、解決することができるようにする。</li> <li>○身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしないで会話に参加することができるようにする。</li> <li>○身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。</li> <li>○身近な話題や関心のある事柄について、まとまりのある内容を話すことができるようにする。</li> <li>○関心のある分野のテーマに関する記事やレポート、資料の概要や要点を説明することができるようにする。</li> <li>○知識のある時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の経験や身近な事柄について、複数のパラグラフから成る説明文を書くことができるようにする。</li> <li>○関心のある分野のテーマに関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。</li> <li>○関心のある分野のテーマについて、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができるようにする。</li> </ul>
	A2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取ることができるようにする。</li> <li>○身近な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。</li> <li>○ゆっくりはっきりと話されれば、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活において身の回りにある短い平易なテキストから、必要な情報を読み取ることができるようにする。</li> <li>○平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。</li> <li>○身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやりとりをすることができるようにする。</li> <li>○身近な話題や興味関心のある事柄について、ある程度準備をすれば、会話に参加することができるようにする。</li> <li>○身近な話題について、簡単な英語を用いて簡単な意見交換をすることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。</li> <li>○身近な話題や関心のある事柄について、簡単な説明をすることができるようにする。</li> <li>○身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。</li> <li>○身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができるようにする。</li> <li>○聞いたたり読んだりした内容について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができるようにする。</li> </ul>
	A1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。</li> <li>○日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。</li> <li>○ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活において身の回りにある英語の中の語句や単純な文を理解できるようにする。</li> <li>○平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができるようにする。</li> <li>○身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手の発話を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができるようにする。</li> <li>○相手のサポート(ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など)があれば、ごく身近な話題について、簡単な表現を使って質疑応答をすることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な語句や文を用いて、自分について話すことができるようにする。</li> <li>○日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。</li> <li>○ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分に関するごく限られた情報を、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。</li> <li>○ごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。</li> </ul>
(Pre-A1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかが分かるようにする。</li> <li>○挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。</li> <li>○ゆっくりはっきりと、繰り返し話されれば、自分に関することや身近で具体的な事物を表わすごく簡単な語句や文を聞き取ることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ごく身近にあるアルファベットの文字を識別し、発音することができるようにする。</li> <li>○音声で十分に慣れ親しんだ、ごく身近で具体的な事物を表わす単語を見て、その意味を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶やごく短い簡単な指示に応答することができるようにする。</li> <li>○相手のサポート(ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など)があれば、自分に関することについてごく簡単な質問に答えることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定型表現を用いて、簡単な挨拶をすることができるようにする。</li> <li>○自分や身の回りの物事に関するごく限られたことについて、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的を持ってアルファベットの大きくて小文字を活字で書くことができるようにする。</li> <li>○例文を参考にしながら、音声などで十分に慣れ親しんだ語句や文を書き写すことができるようにする。</li> </ul>	

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表。



# 外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠（CEFR）について

- CEFR（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment）は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て策定された。欧州域内外で使われている。
- 欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施するにあたって用いられたりするなどしている。

熟練した言語使用者	<b>C2</b>	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	<b>C1</b>	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	<b>B2</b>	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	<b>B1</b>	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	<b>A2</b>	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	<b>A1</b>	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

（出典） ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

# 各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0					
C1	CAE (180-199)	1級 (2630-3400)	1400		7.0-8.0	400	800	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2304-3000)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	600-795	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1980-2600)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	420-595	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1284-1800)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	150-225	235-415		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (419-1650)	-699	-564 L&R&W -484	2.0					200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>  
[http://www.eiken.or.jp/association/association/info/2015/pdf/20151218\\_pressrelease\\_CSE2.pdf](http://www.eiken.or.jp/association/association/info/2015/pdf/20151218_pressrelease_CSE2.pdf)

TOEFL：米国ETS <http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-06.pdf?WT.ac=clk>

IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より

TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>  
<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より  
「L&R&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

TOEIC：IIBC <http://www.toEIC.or.jp/toEIC/about/result.html>  
「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

※各試験団体の公表資料より文部科学省において作成

# 大学入学者選抜における民間の英語資格・検定試験の活用状況

平成27年度大学入学者選抜において民間の英語資格・検定試験を**活用している大学は、43.0%**  
**(299/695校)** (参考：平成25年に実施した「平成25年度大学入学者選抜における民間の英語資格・検定試験の活用状況」時点では35.8%)  
 国立大学では、**推薦入試が23.5%、AO入試が13.6%、一般入試では11.1%**が導入。

	純計	推薦	AO	一般
国立	35	18	11	9
	(43.2%)	(23.5%)	(13.6%)	(11.1%)
公立	21	17	8	1
	(26.3%)	(21.3%)	(10.0%)	(1.3%)
私立	243	168	149	34
	(45.5%)	(31.5%)	(27.9%)	(6.4%)
計	299	203	168	44
	(43.0%)	(29.2%)	(24.2%)	(6.3%)

上段(単位/校)

下段の( )は国立81校、公立80校、私立534校、計695校に対する割合

※回答時点における導入予定校を含む

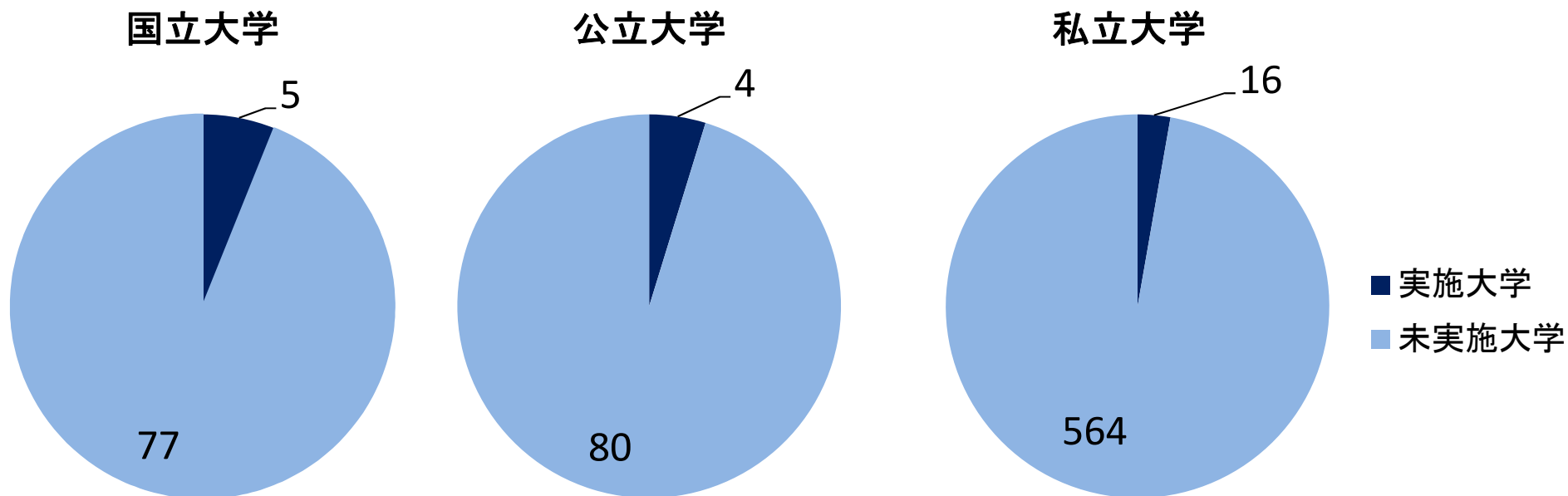
※平成27年度文部科学省委託事業

「民間の英語資格・検定試験の大学入学者選抜における活用実態に関する調査研究事業」から引用

# 個別選抜において英語のスピーキングの技能を評価している大学

平成27年度大学入学者選抜において、**英語のスピーキングの技能を評価している大学は、3.4% (25/746校)**

国立大学では、5大学がスピーキングの技能を評価しているが、面接試験の一環として評価する傾向。



	大学数	選抜を実施する大学における割合
国立大学	5	6.1%
公立大学	4	4.8%
私立大学	16	2.8%
合計	25	3.4%

※平成27年度大学入学者選抜実態調査をもとに作成